

人間研究会

背景

ロージ・ブライドッティ『ポストヒューマン』によると、「人間」という概念はルネサンス以降の全歴史を通じて「万物の尺度」とされてきた。しかし、その人間像は近代・西洋・白人・男性的なものだった。

近年、目覚ましいテクノロジーの発達により、人間の生は日々その様相を新たにしている。そのような急速な変化を生きる我々は、いま一度「人間」とは何かという問題を再考する必要に迫られている。

目的

「人間」とは何かー人間の再考ー

本研究会では、これまでの「人間」の在り方を再考しこれからの「人間」の在り方を見定める。

各人の研究発表を通じて、女性、黒人、AI等の「人間 human」の他者との出会いを研究することで「人間」について改めて問い直す。

運営方法

場所：主に究論館プレゼンテーションルーム

頻度：月に1、2回

形態：①研究発表・議論 ②講師招聘 ③読書会

①各自の専門分野について初修者にも分かり易く20分で報告 質疑応答と議論

②専門分野の異なるメンバー間に共通する議題の発見を促す目的、本学教授1名に講義を依頼

③あらかじめ設定した共通課題についての討議や読書会

新規メンバー募集中！！

本研究会に興味がある方は下記メールアドレスまでご連絡ください！

lt0734ih@ed.ritsumeai.ac.jp

メンバー・研究内容

文研・英米／松本小夜子 中世イギリス文学

文研・英語圏／吉田暁音 ヒップホップと人種暴力

文研・英語圏／中谷可惟 ジャズ批評

文研・英語圏／猪熊慶祐 アメリカ文化・文学

文研・哲学／蛸子良風（代表）現象学・レヴィナス

文研・教人／朝倉愛里 教育人間学

国関／新林孝介 グローバル・ガバナンス

国関／北和樹(副代表) AIロボットの規範

開催内容

・研究発表

「クリスティ・ミンストレルズによるシェイクスピア作品の利用について」猪熊

「EUのAIロボット政策」北

「現象学と意識の自由」蛸子

「Chaucer' Querelle des Femmes in The Canterbury Tales バースの女房と学僧の女性論争」松本

「現代社会における出会いに関する一考察：ボルノーの出会いの概念を援用して」朝倉

「"The Blacker the Berry"からみるKendrick LamarのBlack Lives Matterへの距離感」吉田

・読書会

ロージ・ブライドッティ『ポストヒューマン：新しい人文学に向けて』

【通算9回開催】

※上記を除く2回は運営計画協議等を実施

